

狩野元信邸跡

[東陣]

狩野元信（1476～1559 年）は有名な絵師で、1338 年から 1573 年まで日本を統治した足利幕府（武家政権）の御用絵師であった狩野正信（1434～1530 年）の息子です。正信・元信親子はともに狩野派を立ち上げ、狩野派は支配階級から高い評価を受けて、19 世紀まで日本芸術界において権勢を振るようになりました。

狩野派の様式は、繊細で微妙な筆運びによって風景や自然的特徴を表現した中国水墨画の一形態から派生しました。元信はこの様式をさらに発展させ、中国の技法とともに日本の伝統的な技法を取り入れました。この革新によって、狩野派はさまざまな様式を探求し、多くの見習い絵師を引き付けることができました。

狩野元信が暮らし、仕事をしていた邸宅の跡地は、住宅街の真ん中にある控えめな石碑が目印です。